

平成 25 年度 一般選抜中期日程／経済学科・公共マネジメント学科 外国語  
出題の意図と解答の傾向

I

問 1 (4 点 x 10)

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ
7	4	3	6	8	10	2	1	5	9

問 2 (15 点)

【解答例】

彼ら自身の国が数十年も前になくした素朴な田舎のライフスタイルを探求するために。

【採点講評】

The simple rural life their own country lost several decades ago. の箇所を「数十年前に失われた彼らの国の」と訳したものが結構あった。lost が前の simple rural life へかかっていることが分かるように訳してもらいたい。

simple を「単に」several decades ago 「10 年前に」their own country 「所有する」などの間違いも目立った。

to explore を「探すこと」と訳したのも散見できた。また explore を「広める」「搾取する」などの意味で訳していたものもあった。

問 3 (15 点)

【解答例】

多くの人々は今日、私たちが持っている総量（総額）では表わすことが出来ない幸福を求めている。

【採点講評】

that is not represented by の箇所を「得られない」「還元されない」「測れない」などとしたものや by the amount we have 「持つすべてのもの」と訳したものも多かった。

問 4 (10 点)

【正解】 2

【採点講評】

Heart に「場所などの中心部」という意味があることを理解していた受験生にとっては、比較的簡単な問題であり、誤答はあまりなかったように思われる。

問 5 (15 点)

【解答例】

近年の強い外部の観光開発の圧力に直面しているにもかかわらず。

【採点講評】

Outside を外国や海外と訳す者が多かった。問題文からはソップ村の外ということが理解できるはずである。

Tourism の意味を正しく訳せない受験生が多かった。カタカナ表記でツアリズムやツアーとする者が多かった。Tourist と読み違い、旅行者と訳することで連動的に誤訳が生じている者が少なくなかった。つまり、Development を「増加」と考え、「増加した海外旅行者の強い圧力」というように訳している。さらに、テロリ

ズムと読み違い「専政君主政治」と訳する者や道具の Tool と勘違いし「道具主義」などというわけのわからない訳をする者、観光産業、旅行代理店、旅行会社、旅行主義・観光思想などと訳す者もいた。

pressure を pleasure と間違える者も少なからずいた。facing との関連で「満面の笑み」と訳す珍回答もあった。

上記に比較して Despite を訳せない者は、比較的少なかったが、「～を除いて」と訳す者がいた。

Development を「先進国」や「経済の発展した国」と訳すものがいた。

誤字には、「最近」を「再近」、「観光」を「観行」などとしている者がいた。

全体として tourism development を正しく訳せた者は点が高く、それ以外は低かった。いずれにせよ、問題文のボリュームも少ないので、ざっと全文に目を通すということを受験生にやってもらいたい。これが出来ていれば、問題文の内容とあまりにもかけ離れた珍回答はできないはずである。

## 問6 (20点)

### 【解答例】

これらは彼ら自身が消費するためと、ナチュラルで化学薬品を使っていないという理由でこれらの商品を求める都市生活者に販売するのに向けられる。

### 【採点講評】

構文としては These are both ( for A ) and (for B who ~ because ~) となっており、後半部の for B は who と because が両方かかって長くなっている構造になっている。しかしながら for B のみにかかる because 以下の内容を for A と for B の双方の内容にかけて訳しているケースが非常に多かった。文法的には A B 双方にかかるとしても間違いではない。しかしながら今回のケースは意味を注意深くとれば、because の内容が for B のみにかかっていることがわかるはずである。

文冒頭 These は前文の「fish, wildlife and vegetables」を指す。が、これを「全員」などと訳したために後半部の意味がとれなくなっているものがあつた。

単語の意味の取り違い。consumption を消費ではなく custom と読み違えるケース。dweller に「商人」や「お金持ち」など勝手な意味を当てると。

\* 漢字表記の間違い。chemical を「化学」ではなく「科学」と表記。

## 問7 (10点)

### 【解答例】

social network (in their community)

## 問8 (15点)

### 【解答例】

村人たちはお金を使わない、その代わりに彼らは商品と労働を交換する。

### 【採点講評】

英単語の意味を知っていたとしても、構文や用法を辞書で調べて勉強していないと思わせる訳が相当数あつた。また、主語がない、違う主語を書いている例もあつた。

目立った間違いは以下の通り。

(1) labour の日本語訳

レバー(肝臓 : liver), ゴム(rubber), 恋人(lover), 強盗(robber),

研究(laboratory, labo.と勘違い)など、音?で覚えている。

(2) exchange A and B

「exchange "何か 1" and A」 and 「exchange "何か 2" and B」と解釈しているような訳が多かった。

**II**

問 1 (各 15 点)

全体的によくできていて、得点の低い解答との差が大きかった。よく知っている語であるのに綴りの誤りが意外と多かった。特に、r と l (recture、fliend、encalege など)、v と b (devate、adbace など) の混同が目立ち、発音の問題も含んでもいる。多くはないが意味・品詞に関する同種の混乱や誤りも見られた。usufull を usuness、exchange を change、them を their、before を advance など。

(1) で誤りが多かったのは、discuss about であった。discuss はよく知っている語だが、「(～について) 議論する」が災いしてつい about をつけてしまう。discuss は他動詞である。「ジーニアス英和辞典」にあるように、「(物・事) を[人]話し合う、議論する」と覚えるとよいかもかもしれない。debate、argue を使った答案もかなりあったが、細かい意味の違いに注意を向ける習慣を付けたい。クラスメートを class friends としたり、たんに friends と書いた答案も目立った。

(2) では、「勧める」について recommend、suggest、propose、advise など使われていた。意味的にはよいがそれぞれの動詞の文法規則に関わる誤りがあった。勧める内容と勧める相手が動詞の後ろにどのような形で続くかについての情報は、例えば英和辞典で調べることができる。新出動詞や使用の不確かな動詞については日頃から辞書で構文情報をチェックする習慣をつけよう。勧める人を主語にした文もあり、多くが正しく文が作られていた。

**【解答例】**

(1) They also exchange information and discuss their courses with other classmates.

(2) Students are encouraged to download this information before the class to help them prepare for the lecture.

問 2 (30 点)

**【解答例】**

I agree with the new rule that requires students to conduct 200 hours of volunteering in their first year of university. There are two reasons. First, participating in volunteering would make students more responsible. First year students are still children, and tend to care only about themselves. If they experience volunteering at this age, I am sure they would care more about others, and act more responsibly. Second, it may help students realize what they want to do in the future. Most first year students have little experience of society, and thus do not know what kind of job they want to do after graduating. This experience may help them to figure this out early. There is no doubt that many students may complain about this rule. However, I think it is a great idea.

**【採点基準】**

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、30 点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、解答は導入文・本文・結論で構成されているかどうか、“discourse markers” (first, second, one reason is, in conclusion など)や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうかどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

### 【採点講評】

三つの評価項目（内容・構成・言語力）において優れている解答は、全体的に少ないながらも例年より多かった。「内容」に関して、今年は独創的な解答が多かったように感じた。例えば、「200 時間は反対だが、100 時間なら賛成できる」とか「学校は学生に強制的にボランティアをさせるのは良くないが、ボランティアの機会を紹介する程度なら賛成する」のような内容の解答もあり、受験生は問題に対して深く考えた模様である。「構成」に関しては、ほとんどの解答は導入文・本文・結論で構成され、“discourse markers”が使われていた。「言語力」において、なかなか難しい語彙や表現を使った解答が例年より多かったような印象を受けた。例えば「ボランティアは強制的にさせることではない (Volunteering is something that people should not be compelled to do)」や「ボランティアは自らするものである (Volunteering is something that people should do of their own free will)」など。なかなか高いレベルの語彙や言い回しが多くの解答に出たことに驚いた。

ただ、問題点も多々あった。特に気になった点を以下で紹介する。

【内容】：理由と詳細の関連性が薄い解答がやや多くて、このような解答は減点対象となった。理由を十分に説明していない解答も減点された。理由をあげることにとどめず、理由を十分に説明する必要があることを是非忘れないでほしい。

【構成】：“Discourse markers”を使った解答がほとんどで良かった一方、間違えて使っている解答が非常に多く、残念に思った。“Discourse markers”の正しい使い方をもう一度確認してもらいたい。

【言語力】：意味が全く通じない解答は例年より少なかったように感じたが、部分的に通じない、不自然な言い回しを使っている解答が多くて、このような解答は減点対象となった。これは基礎英語力の問題に当たるが、克服するためにはやはり多くの英語に触れることが必要。英文をたくさん読んだり聞いたりすることによって基礎英語力が身に付くので、ぜひ日頃からそのような活動に取り組んでももらいたい。最後に、単純な文法ミスや綴りミスが目立ってしまった。不注意によるミスは減点につながるので非常にもったいない。解答を書き終えたら、一度二度解答に目を通して、ミスがないかよく確認してもらいたい。